

## 第1回 短期労働者の宿泊場所等の確保に向けた検討会議

---

- 2026年以降に苫小牧市圏域で想定されるプロジェクト …………… 2
  - (1) 概要
  - (2) 想定される懸念
- 苫小牧市圏域で想定される事業各種 (スケジュール) …………… 3
- 苫小牧市圏域で想定される事業各種 (位置図) …………… 4
- 各事業の概要 …………… 5
- 短期労働者の宿泊場所確保への対応スケジュール (案) …………… 7
- 会議体の形成 (案) …………… 8
- 短期労働者の宿泊場所確保に向けての俯瞰図 (案) …………… 9

# 2026年以降に苫小牧市圏域で想定されるプロジェクト

- i. 2030年完工目標の大型プロジェクト(PJ)が苫小牧市圏域（勇払～苫東臨海部にかけて）で複数公表されている。
- ii. 早いPJだと2026年から始動。2027年から各種PJが本格始動となる。
- iii. 各種PJの事業者ヒアリングの結果、ピーク時には10,000人/日以上作業員が苫小牧市圏域にて作業に従事予定。従事期間としては2026年から2032年頃までで通年を予定。（ピークは2027年から2030年の4か年程度）
- iv. その間にも出光興産(株)の4年に1度の大・中規模のSDM(シャットダウンメンテナンス)も実施年度を分散し実施予定。

## 【想定される懸念】

- ◆ **宿泊施設不足** . . . . 出光興産(株)の4年に1度の大規模SDM（動員3,000人/日）においても、苫小牧市内の宿泊施設で吸収しきれず、登別や札幌から現場に通う作業員がいる状況。
- ◆ **交通渋滞** . . . . 限定的なエリアにおける突発的な雇用拡大となるため、交通インフラが不十分。地場企業にも影響が及ぶ交通渋滞が時間帯によっては起こる可能性が極めて高い。
- ◆ **PJの遅延等** . . . . 複数のPJが同時期に始動となるため、工事費高騰や工事請負者の奪い合い、完工遅れ、あるいは計画自体が頓挫となるPJが出る可能性がある

# 苫小牧市圏域で想定される事業各種（スケジュール）

案件名	主事業者	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
①出光北海道製油所SDM	出光興産 (株)		(中)		(大)		(中)		(大)
②CCUS事業	1.出光興産 (株) 2.石油資源開発 (株) 3.北海道電力 (株)								
③グリーン水素	北海道電力 (株) 出光興産 (株) 他								
④アンモニアタンク製造	北海道電力 (株) 他								
⑤苫東厚真発電所（定期メンテナンス）	北海道電力 (株)								
⑥合成燃料	出光興産 (株)								
⑦その他	—								
1日当たりの作業員見込み数（合計）		800人	4,600人	9,600人	12,600人	9,600人	9,600人	1,300人	4,600人
1日当たりの《宿泊が伴う》作業員見込み数（合計）		200人	3,600人	8,100人	10,800人	8,100人	8,100人	650人	3,600人

- ◆ ①出光SDMは6月から8月頃までの3カ月程度の短期事業。⑤についても毎年の定期メンテナンスであり、数か月程度の工事。他の事業は通年且つ複数年を予定している。
- ◆ この他にも駅前再開発に向けた工事、新規企業進出に伴う工事、千歳市のラピダス工場IIM-2の建設等が見込まれる。

# 苫小牧市圏域で想定される事業各種（位置図）

- ① 出光SDM
- ② CCUS事業
- ③ グリーン水素
- ④ アンモニアタンク製造
- ⑤ 苫東火発（定期メンテ）
- ⑥ 合成燃料



# 各事業の概要

## ① 出光シャットダウンメンテナンス (SDM)

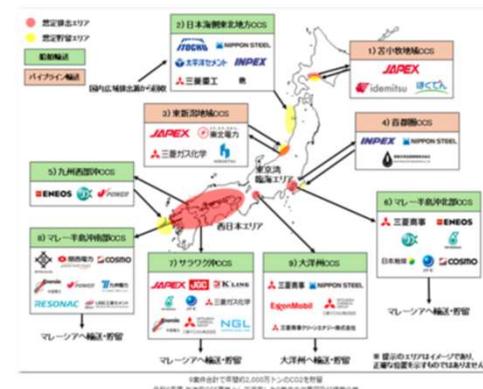
出光興産（株）北海道製油所にて4年に1度行われる、大規模な定期保全工事。安全性と効率性の向上を目的とし、石油精製の全装置を停止し、点検、検査、補修、更新および触媒取替工事などが実施される。



## ② CCUS事業

石油資源開発（株）、出光興産（株）、北海道電力（株）の3社により苫小牧エリアにて検討されている。苫東厚真発電所、出光興産北海道製油所から排出される二酸化炭素をパイプラインで輸送し、年間150～200万トン进行小牧沖の海底下に圧入、貯留する計画。

<参考：苫小牧エリアにおける3社事業拠点>



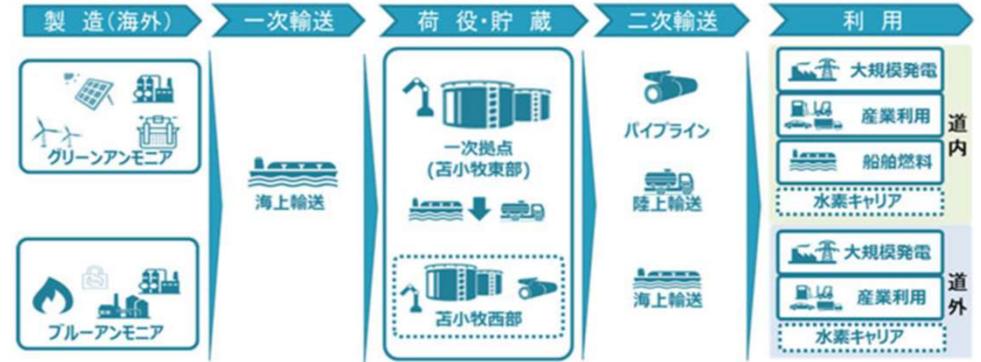
## ③ グリーン水素

2030年頃までに、苫小牧西部エリアにおいて、国内最大級の、約1万トン/年以上の再生可能エネルギーを活用して製造した『グリーン水素』を出光興産及び地域の工場などにパイプラインで供給するサプライチェーンの構築を目指すもの。  
出光興産（株）、北海道電力（株）ほかで検討。



#### ④アンモニアタンク製造

北海道電力（株）ほか計6社で、苫小牧地域を拠点としたアンモニアサプライチェーン構築に向け共同検討を開始したもの。海外で製造したアンモニアを輸入し、苫小牧地域での受入・貯蔵・供給拠点の整備に関する検討や、北日本広域圏でのアンモニア利活用先の拡大に向けた調査を行うもの。



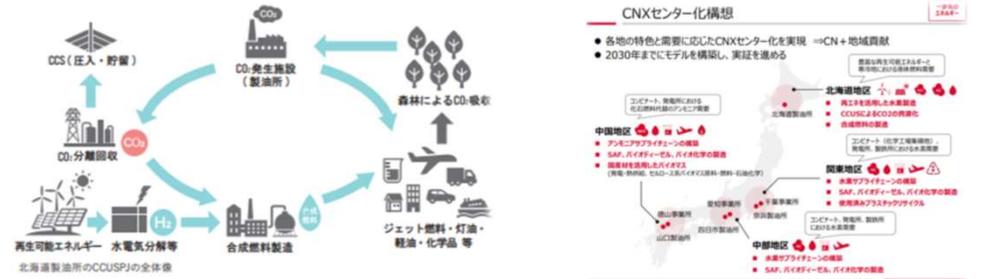
#### ⑤苫東火発（定期メンテ）

苫東厚真発電所において毎年定期的に行われる、ボイラやタービンなどの発電設備のメンテナンス。修繕工事を伴う場合は、通常稼働時のおよそ2倍の800人程度の作業員が従事する。



#### ⑥合成燃料

出光興産（株）の中期経営計画にも盛り込まれている取組。排出された二酸化炭素と近隣で製造したグリーン水素を原料として、灯油代替、ガソリン代替、ジェット燃料代替となる合成燃料製造について検討を行うもの。



# 短期労働者の宿泊場所確保への対応スケジュール（案）

年 月	2025年(令和7年)				2026年(令和8年)				2027年(令和9年)				2028年(令和10年)				2029年(令和11年)							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
苦小牧市 市内連絡会議	↔ 第1回開催済				※2回目以降は適宜必要に応じて開催。																			
短期労働者の宿泊 場所等の確保に向 けた検討会議	↔ 第1回開催				※年2.3回程度の検討会議を実施予定																			
(部会) プレイヤー	←—————→ ※関係者検討会議の部会という位置付で適宜必要に応じて開催。(プレイヤー⇒本事案にかかるプロジェクトの事業主体者)																							
(部会) 各サプライヤー	←—————→ ※関係者検討会議の部会という位置付で適宜必要に応じて開催。 (サプライヤー⇒宿泊・不動産、関係自治体(白老町、安平町、厚真町、むかわ町)、交通等)																							
その他	↔ 情報公開				↔ 宿泊調整プラットフォームの準備				↔ 宿泊調整プラットフォーム運用												↔ 短期労働者受入需要調査(未来まちづくり戦略会議と連携)			

※ 1Q(4~6月), 2Q(7~9月), 3Q(10~12月), 4Q(1~3月)

# 会議体の形成(案)

## 組織化する理由

- 約1万人の労働者が複数年に渡り本圏域周辺に滞在することによる経済効果は極めて高い。
- 宿泊施設(ホテル・寮等)の新規建設といった民間の投資意欲を促進する情報発信も必要。
- 宿泊施設だけでは賅いきれない規模であることから仮設キャンプの設置検討、既存住宅・社宅等の活用の検討も必要。
- 関係者(PJ事業者、東胆振圏域自治体、地場企業、宿泊業界、庁内)と緊密に情報共有を図り、課題解決に取り組む場が必要。

## 短期労働者の宿泊場所等の確保に向けた検討会議

### 【構成メンバー】

- 苫小牧市(港湾・企業振興課) ※事務局
- 関係自治体(東胆振圏域自治体、苫小牧市関連部局)
- プレイヤー(各種PJ関連企業)
- サプライヤー(管内宿泊事業者、不動産事業者、交通事業者等)
- その他(関連事業者)

### プレイヤー部会

#### 【構成メンバー】

- 苫小牧市(港湾・企業振興課) ※事務局
- 出光興産(株)
- 石油資源開発(株)
- 北海道電力(株)
- 北海道ガス(株)
- その他(関連事業者)

### 各サプライヤー部会

- 関係自治体(1市4町)
- 宿泊 ○ 不動産 ○ 交通 等
- ※ 必要に応じて適宜開催

※ 現段階において部会名称は仮称

# 短期労働者の宿泊場所確保に向けての俯瞰図（案）

